Ｎｏ．３４８【２０１９年３月１５日配信】

石森橋の名前の由来（担当：村上）

こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室では先月から市民図書館８階で館内展示「地名や街並みに見る青森市の歴史」を行っています。今回はこの展示に関連して、堤川に架かる橋の名称の由来についてお話したいと思います。

堤川の河口近くに石森橋という橋があります。この橋の東側は港町、西側は青柳で、橋の名称と地名は関係がありません。では、橋の名称の由来はいったい何でしょうか?

昭和 30 年代の石森橋（歴史資料室蔵）

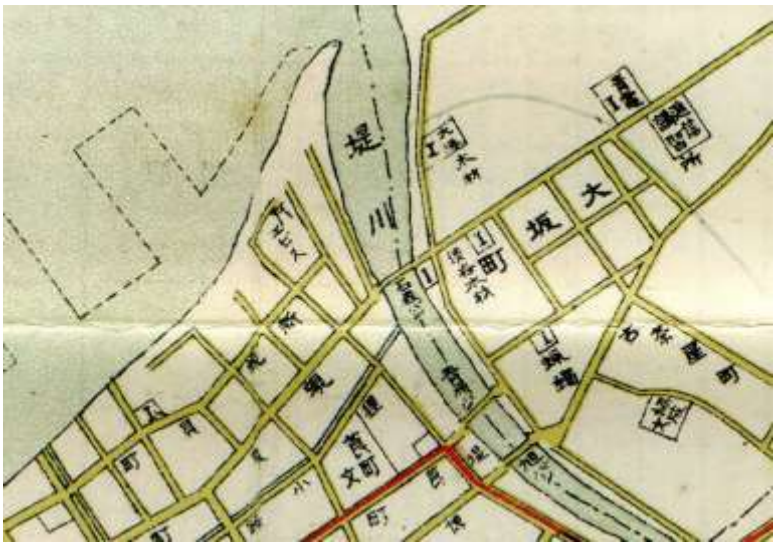
実は、石森橋という名称は石井省一郎と大森直輔という人物の名字から一字ずつとって名付けられたといわれています。

石井は内務省土木局の初代局長を務めた人物で、野蒜（のびる）築港工事（現宮城県東松島市における港湾建設事業）に携わるなど土木分野での経験が豊富であったことから「土木石井」とも呼ばれました。明治 17 年（1884）に岩手県令（明治 19 年より知事）、明治 24 年に茨城県知事となり、明治 30 年からは貴族院議員を務めました。

一方、大森は岩手県や埼玉県などで県属（県の事務を取り扱う職員）を務めた人物です。石井が岩手県令・知事を務めていた頃は岩手県の土木課に所属しており、鉄道に関する業務に携わっていました。

さて、石井が岩手県知事を務めていた頃、盛岡－青森間で日本鉄道線（のちの東北本線）の建設工事が行われていました。このとき、石井と大森は浪打（現港町一丁目附近）に青森駅が建設されることを見越して土地を購入したといわれています。しかし、彼らが土地を購入したことによって地価が高騰してしまい、日本鉄道の用地買収に困難が生じたことから、青森駅は別の場所へ建設されることになりました。

彼らが購入した土地に駅は建設されませんでしたが、のちに別のかたちで開発されることになりました。明治 22 年 5 月、塩町（現青柳）で火災が発生し、塩町にあった遊郭が大きな被害を受けたことから、遊郭を堤川の対岸にある浪打へ移転することになったのです。そして、浪打につくられた新しい遊郭街と蜆貝町（現青柳）を結ぶために橋が架けられ、土地所有者の名前から石森橋と名付けられました。



石森橋周辺
（『昭和二年青森市勢一覧』昭和 3 年 6 月発行、歴史資料室蔵）

なお、石井省一郎は浪打以外にも青森市内に土地を所有していました。このことについては館内展示で取り上げておりますので、市民図書館へお越しの際はぜひご覧ください。

※今回の内容は、肴倉弥八編集『堤川』（1979 年）、歴代知事編纂会編集『新編日本の歴代知事』（1991 年）、「陸軍憲兵曹長勲七等小林孝治以下八名叙位ノ件」（1898 年　国立公文書館所蔵）などを参考にしました。